

【第1号議案】

2024年度会務総括報告

2024年度事業ならびに会務運営は、2023年度第6回理事会において承認（2024年度定時総会にて報告）された事業計画に基づき執行した。

第80回総会学術大会は、パシフィコ横浜での現地開催と5月16日までのオンデマンド配信を組み合わせたハイブリッド開催を成功裏に実施した。参加登録者数は5,056名であった。The 3rd International Conference on Radiological Physics and Technology (The 3rd ICRPT) では、JSRTとJSMPを合わせて、91演題の一般発表が行われ、そのうち海外からの演題は28演題（30%）であった。会場では英語での質疑応答が活発に行われ、これからも国際会議として益々の発展が期待できる。国際的学術連携では、タイ医学物理学会（タイ王国）、大韓放射線科学会（大韓民国）、中華医学会影像技術学会（中華人民共和国）とは代表理事または国際戦略委員が現地へ赴き対面での交流を実施した。中華民国醫事放射學會（台湾）とは代表理事のビデオレターを送付し交流を継続した。

医療技術等国際展開推進事業（厚生労働省）の助成を得て、ラオス大使館、ラオス保健省などとの連携のなかで進めている「ラオスにおける放射線医療機器の品質・安全管理技術の向上を目的とした技術研修」事業は、X線を用いた検査装置の原理、核医学の基礎セミナーに加えて、検査装置の日常点検を含めた安全管理セミナーなど実地研修を実施した。さらに、JICA草の根技術協力事業の応募に向けて準備を進めていたが、国際NGO（INGO）登録の申請を優先したため、技術協力事業への申請は次年度以降に持ち越した。

国内の関連団体との学術連携は、日本放射線看護学会の第13回学術集會に演者を派遣した。また、合同会議を開催して共同研究を企画した。日本診療放射線技師会とは、2024年に第1回日本放射線医療技術大会を共同開催（沖縄県）した。

2024年度末の正会員数は15,684名であり、2023年度末の正会員数15,923名と比べて減少（239名）となった。年会費を無償とした学生会員は2,158名となり、前年度と同様に高い水準を維持した。

2024年度の初頭に一般会計の残金不足が生じたため、本年度は、財務的な収支バランスの回復に向けて、主に会議体制に関する合理化を推進した。会員諸氏の温かいご理解と担当役員・委員の献身的な努力により、学会一丸となって滞りなく執行できたことに深甚の謝意を表す。

以下に、2024年度事業の全般にわたり、その概要を報告する。

1. 学術集會事業；公1

1) 総会学術大会の開催

第80回総会学術大会は、パシフィコ横浜にて根岸 徹大会長のもと2024年4月11日（木）～14日（日）の4日間、対面開催を行った。また、対面開催に引き続き、2024年5月16日（木）まで、約1か月間にわたりオンデマンド開催を行った。一般研究発表演題は337題、参加登録者数は正会員4,024名、学生931名で総計5,060名であった。

第81回総会学術大会は2024年4月10日（木）～13日（日）の4日間、岩永 秀幸大会長のもとパシフィコ横浜会議センター他で開催すべく準備を進めた。

2) 秋季学術大会の開催

第52回秋季学術大会は、沖縄コンベンションセンター（沖縄宜野湾市）にて白石順二大会長、上田克彦大会長のもと日本診療放射線技師会と合同で第1回日本放射線医療技術学術大会として2024年10月31日（木）～11月3日（日）の4日間開催した。さらに、2024年11月1日（金）～12月9日（月）の約1か月間はオンデマンドで開催した。一般研究発表演題は789題（研究：522題、報告：267題）、参加登録者数は2,698名であった。

第53回秋季学術大会は2025年10月17日（金）～19日（日）の3日間、札幌コンベンションセンター（札幌市）で開催すべく準備を進めた。

3) 専門部会プログラム、セミナーの開催

7つの専門部会が総会学術大会にジョイントして部会プログラムを開催し、教育講演や種々の企画を行った。さらに、教育委員会、専門部会、地方支部の共催でセミナーを開催した。各専門部会の開催内容を以下に示す。

画像部会は、臨床画像評価セミナー、医用画像処理プログラミングセミナー、ROCセミナーとDRセミナーを各1回開催した。

核医学部会は、核医学技術研修会を1回開催した。

放射線治療部会は、放射線治療セミナーを2回開催した。

撮影部会は、乳房撮影ガイドライン精度管理研修会を2回、デジタルマンモグラフィを基礎から学ぶセミナー、CT 応用セミナー、実地で学ぶ MRI 安全管理セミナー、単純X線撮影標準化セミナーを各1回開催した。

計測部会は、診断 X 線領域の線量測定基礎 web セミナー（乳房撮影編）、診断 X 線領域の線量測定基礎 web セミナー（X 線透視装置編）、サーバイメータ活用セミナーを各1回開催した。

放射線防護部会は、2回の放射線影響と防護量の考え方を学ぶ Web セミナーと“伝わる”医療被ばく相談実践セミナー、第1回放射線防護 温故知新 Web セミナーを各1回開催した。

医療情報部会は、2回の PACS Specialist セミナーと PACS ベーシックセミナーを1回開催した。

4) 地方支部における学術大会、セミナー等の開催

各地方支部において地域に根ざした支部独自の学術大会ならびに支部事業を開催した。

- ① 北海道支部： 北海道支部第 80 回春季大会、秋季大会とセミナーなど 5 回
- ② 東北支部： 東北支部第 62 回学術大会、学術講演会やセミナーなど 10 回
- ③ 関東支部： 第 71 回関東支部研究発表大会、学術講演会や研究会を 27 回
- ④ 東京支部： 第 78 回東京支部春期学術大会他、技術フォーラムやセミナーなど 28 回
- ⑤ 中部支部： 第 58 回中部支部学術大会、学術や技術セミナーなど 27 回
- ⑥ 近畿支部： 第 68 回近畿支部学術大会、勉強会やセミナーなど 15 回
- ⑦ 中国・四国支部： 第 65 回中国・四国支部学術大会、夏季学術大会やセミナーなど 10 回
- ⑧ 九州支部： 第 73 回九州支部学術大会、コミュニティやセミナーなど 12 回

5) 公開シンポジウム・公開講座の開催

一般市民を対象とした 2024 年度市民公開講座は「そこが知りたい！こどもの側弯症のはなし ～X 線検査による診断から治療まで～」をテーマに開催し 56 名が参加した。2024 年度 JSRT-JART 合同市民公開講座「腰痛について考える」をさいたま共済会館（さいたま市）にて開催し、参加者は 37 名であった。

6) フォーラムの開催

広報、啓発を目的として第 79 回総会学術大会時に、標準・規格委員会は標準化フォーラム、放射線防護委員会は放射線防護フォーラム、関係法令委員会は放射線管理フォーラム、医療安全委員会は医療安全フォーラムを開催した。また、第 52 回秋季学術大会（第 1 回日本放射線医療技術学術大会）時には、日本診療放射線技師会と共同でコラボレーション企画を実施した。

2. 刊行広報事業；公2

1) 学会誌の発行

学会誌第 80 巻 1 号～第 80 巻 12 号の 12 冊（論文特集号 1 冊含む）を毎月 20 日に発行した。2024 年 1 月～12 月で掲載論文数が 65 編（昨年 66 編）であった。

2) 英語論文誌の発行

公益社団法人 日本医学物理学会との共同発刊で、第 17 巻第 1 号（3 月）、第 2 号（6 月）、第 3 号（9 月）、第 4 号（12 月）を発刊した。冊子体は正会員の希望者のみの配布とした。

3) 出版活動

撮影部会より叢書（41）「単純 X 線撮影における品質管理マニュアル」を 8 月に 1,500 部発刊した。撮影部会の乳房撮影ガイドライン普及班より叢書（39）「乳房撮影ガイドライン精度管理マニュアル」を 1 月に 4,000 部増刷した。

放射線技術学シリーズは 8 月に「医療安全管理学（改訂 2 版）」、10 月に「MR 撮像技術学（改訂 4 版）」、11 月に「基礎医学大要」を発行した。

4) 専門部会雑誌の発行

各専門部会において専門部会雑誌を発行した。

- ① 画像部会： Vol. 47 No. 1, No. 2
- ② 核医学部会： Vol. 45 No. 1, No. 2
- ③ 治療部会： Vol. 38 No. 1, No. 2
- ④ 撮影部会： Vol. 32 No. 1, No. 2
- ⑤ 計測部会： Vol. 32 No. 1, No. 2
- ⑥ 放射線防護部会 Vol. 24 No. 1, No. 2
- ⑦ 医療情報部会： Vol. 21 No. 1, No. 2

5) 地方支部雑誌の発行

各地方支部において地方支部雑誌を発行した。

- ① 北海道支部： Vol. 96, Vol. 97
- ② 東北支部： 第 34 号
- ③ 関東支部： 27 号
- ④ 東京支部： Vol. 139
- ⑤ 中部支部： Vol. 26
- ⑥ 近畿支部： Vol. 30 No. 1, No. 2, No. 3
- ⑦ 九州支部： Vol. 23

6) 広報活動

会告、お知らせ、イベント、他団体からの案内をホームページ（和文）等に掲載し、広報活動を展開した。一方、医療に関する放射線被ばくや放射線の基礎知識に関する市民からの問い合わせに対して迅速に対応した。

3. 研究調査事業；公3

学術研究班 2023～2024 年度：7 班，2024～2025 年度：6 班 合計 13 班を編成して学術活動を行った。

第 80 回総会学術大会では，専門部会講座の「入門編」8 講座，「専門編」7 講座ならびに，教育講座を 2 講座開催した。また，第 52 回秋季学術大会では，専門部会講座の「入門編」8 講座，「専門編」7 講座ならびに，教育関連のシンポジウムおよび講座を開催した。さらに，3 編の e-learning コンテンツを作成して，学会の動画チャンネルに掲載した。

4. 研究奨励事業；公4

2023 年度表彰は，表彰規程に基づき，三賞，学術業績賞，研究奨励賞，国際貢献賞の選考・推薦を行った。また，各地方支部において表彰を行った。

- ① 東北支部： 若手奨励賞 2 名
- ② 関東支部： 功労賞 4 名，新人賞 11 名，養成校学部卒業生優秀賞 5 校
- ③ 東京支部： 学術奨励賞 1 名，新人研究奨励賞 4 名，Research Award 1 名
- ④ 中部支部： 功労賞 3 名，奨励賞 9 名
- ⑤ 近畿支部： 功労賞 1 名，大会長賞 1 名，新人奨励賞 7 名，論文奨励賞 7 名
- ⑥ 中国・四国支部： 功労賞 2 名，奨励賞 14 名，学士優秀発表賞 14 名
- ⑦ 九州支部： 支部研究奨励賞 4 名，支部論文文化奨励賞 8 名，Research Award 1 名，学生優秀賞 5 名

5. 連携交流事業；公5

1) 国内

- (1) JRC 理事会に役員を 6 名派遣し，学術大会開催企画に積極的に参画した。
- (2) 一般社団法人 日本放射線看護学会に 6 名を派遣し討論するとともに共同研究を立案した。
- (3) 標準・規格委員会活動として，JIRA，日本 IHE 協会，DICOM 委員会と協力し JIS 原案作成分科会班活動とともに JIS の制定・改正作業に参画した。

- (4) 関連学協会への委員の派遣や共催・後援を積極的に行い情報交換や人的交流の促進に努めた。
- (5) 放射線診療4団体連絡協議会（JRS, JCR, JART, JSRT）として3回の会合に参加した。
- (6) 公益社団法人 日本医学物理学会と2回の懇談会を開催した。
- (7) 公益社団法人 日本診療放射線技師会と2回の懇談会を開催した。

2) 海外

新型コロナウイルス感染症が一段落して開催されたAAPM（3名）、RSNA（2名）、ECR（2名）へ派遣した。また、海外短期留としてヴェルツブルク大学へ1名派遣した。

本会および交流のある学会のうち、中華医学会影像技術学会(CSIT)第31回大会には国際戦略委員会委員（以下、委員）を派遣し、石田代表理事のビデオレターを送付。大韓放射線科学会(KSRS)春季学術大会には代表理事と委員の2名を派遣。中華民国醫事放射學會(TWSRT)第57回大会には、代表理事のビデオレターと抄録を送付。タイ医学物理学会(TMPS)第16回大会には松原理事と委員の2名が参加した。今後は人的交流を活発に行い、学術協定の更新を含めて交流を推進したいと考えている。